

## 最近のESRI研究成果より ESRI国際コンファレンス 「拡大するインド経済の発展の可能性」

経済社会総合研究所研究官  
高井 功一

経済社会総合研究所では、成長するアジア経済の活力の取り込みが、今後の我が国の成長戦略を考える上で重要であることから、アジア経済圏のポテンシャルに関する研究を行っている。その一環として、10月30日に国内外の専門家を招き、インド経済の今後の発展の可能性やインドの発展過程の新興国の成長に対する示唆をテーマに国際コンファレンスを開催した\*。

会場にはビジネス関係者など多数の来場をいただき、インド経済に対する関心の高さをうかがわせた。

### (基調講演)

インドを代表する研究機関であるインド応用経済研究所(NCAER)のシェカー・シャー(Shekhar Shah) 所長をお招きし「インドの潜在力の実現に向けて－『低・中所得の罠』の回避のために－」をテーマに主に以下の内容でご講演いただいた。

- インド経済は昨年選挙で大勝したモディ政権下において、他の新興国が減速を見せる中、年6~7%の成長を続けている。購買力平価でみた経済規模は世界第3位だが、2位も視野に入っている。
- 若年人口の多いインドでは2100年までに労働力人口(16~64歳)は中国を大幅に上回る9億3100万人まで増加し世界最大となる見込み。人口ボーナスにより雇用、財・サービスの需要増が期待されるが、同時に高齢化社会も近づいてくる。中所得国入りをしてから11年で上位中所得国の水準に達した中国に比べ、インドは毎年10%の成長率を達成したとしても上位中所得国の水準に達するには16年程度かかることが見込まれる。
- インドは高齢化を迎える前に豊かになることができるのか。土地政策、労働政策、インフラ整備、女性の労働参加、人材活用など多くの課題がある。モディ政権は15年先を見据えた政策ビジョンの実現に直ちに着手する必要がある。

### (パネルディスカッション)

インド研究がご専門の絵所秀紀法政大学教授をモデレーターとして、インドを始め新興国の諸事情に詳しい平林博日印協会理事長、松本勝男国際協力機構(JICA)南アジア部次長、田中清泰ジェトロ・アジア経済研究所(IDE-JETRO)研究員をパネリストとしてお招きし、シャー所長にもご参加いただいて「インド経済の特徴と今後の展望」、「インド経済の成長と新興国の経済発展」の2部構成で議論を行った。

平林理事長からはモディ政権の現状と課題、日印交流の歴史、インド全域で進行中の大型建設プロジェクトの状況などについて、松本次長からはインド経済の現状・展望や投資促進の課題、インドにおけるJICAの取組、中でも他の新興国にも参考となる「グットプラクティス」について、田中研究員からはグローバル・バリュー・チェーンへの参加の意義や日本からの企業進出の課題に関する分析についてご発表いただいた。その後、インド経済の将来展望などをテーマに議論を行い、絵所教授から以下のようなとりまとめをいただいた。

- インド経済は非常に大きな成長ポテンシャルがあり、とりわけ人口ボーナスの配当は大きい。一方、その配当を実現するためには、硬直的な労働市場をもたらしている労働法制などの多くの障害を除き、大規模な雇用を創出することが必要。
- 「メイク・イン・インディア」を実現するうえで人的資源のアップグレードが必要。グローバル・バリュー・チェーンへの参加は、大きな可能性(one big possibility)を秘めている。インド経済の成長は、ICT等のサービス業が製造業の発展と結びつく場合には他の新興国のモデルの一つとなるのではないか。
- インド経済が発展を遂げる上で日本からの直接投資、ODAは重要。

高井 功一(たかい こういち)



\* (参考) コンファレンス概要 <http://www.esri.go.jp/jp/workshop/151030/151030main.html>